

Amped Elektra



Steinberg マニュアル制作チーム: Cristina Bachmann, Heiko Bischoff, Lillie Harris, Christina Kaboth, Insa Mingers, Matthias Obrecht, Sabine Pfeifer, Benjamin Schütte, Marita Sladek

翻訳: Ability InterBusiness Solutions (AIBS), Moon Chen, Jérémie Dal Santo, Rosa Freitag, Josep Llodra Grimalt, Vadim Kupriianov, Filippo Manfredi, Roland Münchow, Boris Rogowski, Sergey Tamarovsky

このマニュアルは、目の不自由な方や視力の弱い方へのアクセシビリティに配慮しています。このマニュアルは複雑かつ多くの図が使用されているため、図の説明は省略されていることをご了承ください。

本書の記載事項は、Steinberg Media Technologies GmbH 社によって予告なしに変更されることがあり、同社は記載内容に対する責任を負いません。本書に掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。本書で取扱われているソフトウェアは、ライセンス契約に基づいて供与されるもので、ソフトウェアの複製は、ライセンス契約の範囲内でのみ許可されます(バックアップコピー)。Steinberg Media Technologies GmbH 社の書面による承諾がない限り、目的や形式の如何にかかわらず、本書のいかなる部分も記録、複製、翻訳することは禁じられています。本製品のライセンス所有者は、個人利用目的に限り、本書を1部複製することができます。

本書に記載されている製品名および会社名は、すべて各社の商標、および登録商標です。詳しくは、www.steinberg.net/trademarks をご覧ください。

© Steinberg Media Technologies GmbH, 2021.

All rights reserved.

Amped Elektra_1.0.0_ja-JP_2021-08

目次

4	Amped Elektra
4	「Instrument」 ページ
8	「Effects」 ページ
18	索引

Amped Elektra

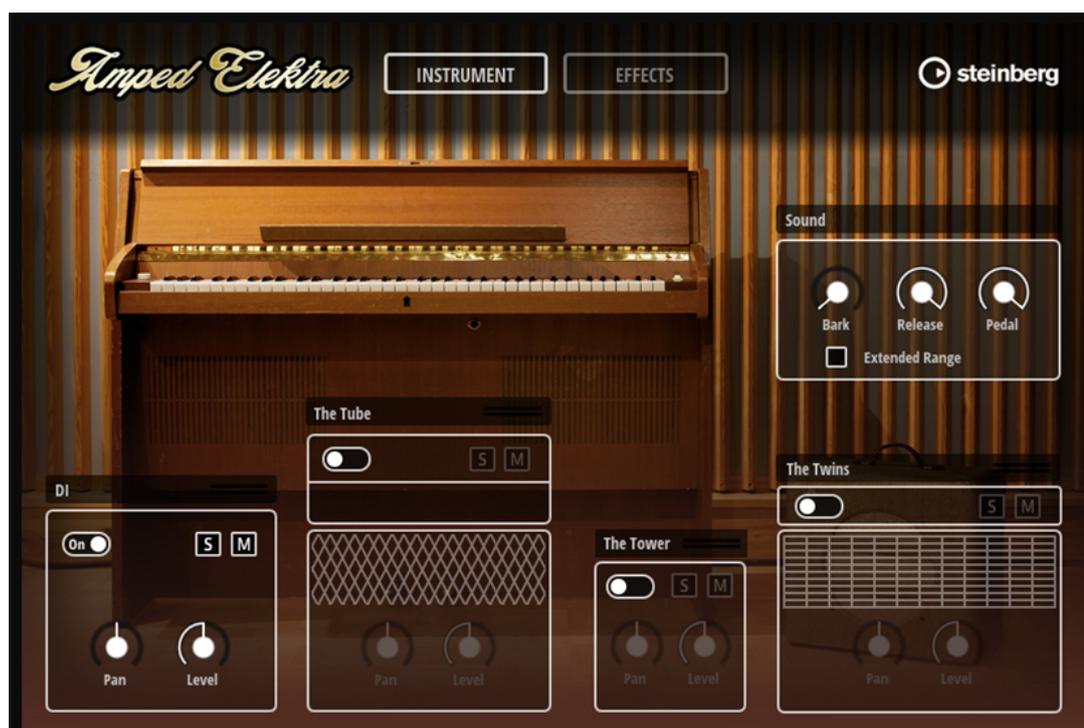
温かく、美しく、ファンキーで独特なサウンドを持つ Hohner Electra にインスパイアされた Amped Elektra は、ファンク、(ネオ)ソウル、ジャズを愛するすべての人々にとって欠かすことのできないツールです。

インストゥルメントのオリジナルサウンド、あるいはさまざまなビンテージチューブアンプを使用してリアンプした3種類の信号を使用し、最大4つのエフェクトを加えることで、求めるサウンドを作り出し、楽曲制作を思い通りに仕上げることができます。

Amped Elektra のユーザーインターフェースは「Instrument」ページと「Effects」ページに分かれています。

「Instrument」 ページ

「Instrument」ページでは、インストゥルメントのサウンドに影響するすべてのパラメーターをコントロールできます。



右上のセクションにはサウンドパラメーター、下のセクションには音源が配置されています。

サウンドパラメーター

右上のサウンドパラメーターでは、有効にした音源のサウンドを調節できます。



Bark

この設定を高くするほど音の輪郭が強調されます。これにより、サウンドのアタック部分にパンチと鋭さが加わります。

このコントロールを一番左に設定すると、オリジナルのサウンドが再生されます。

Release

リリースレベルをコントロールします。

Pedal

サステインペダルを踏んだときに生成されるペダルノイズを調節できます。

Extended Range

サウンドのトリガーに使用するキーボード範囲を拡張します。

- このオプションをオンにすると、キーボード範囲が A-1 ～ C7 になります。
- このオプションをオンにすると、キーボード範囲がオリジナルインストゥルメントと同じ F0 ～ F6 になります。

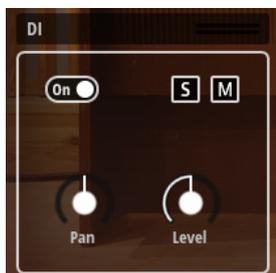
音源

「Instrument」 ページの下部では、使用できる 4 つの音源の有効化と設定を行なえます。

処理されていないクリーンな信号を使用することも、並行して録音された 3 つのリアンプ信号から選ぶこともできます。アンプは、あらゆるジャンルの音楽に適した幅広い音色を再現できるよう厳選されています。

DI

処理されていないクリーンなサウンドです。



On/Off

信号を有効または無効にします。

Solo

信号をソロにします。

Mute

信号をミュートします。

Pan

信号の定位を調節します。

たとえば、片方のアンプを左にパンニングし、もう片方を右にパンニングすると、非常にワイドで広がりのあるステレオサウンドになります。

Level

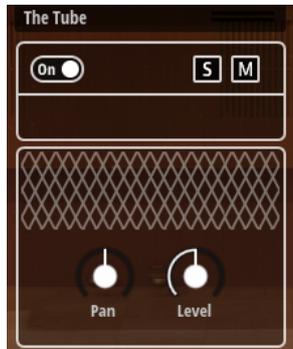
信号のレベルを設定します。

補足

「Level」設定によって、その信号の「Bark」、「Release」、「Pedal」の各サウンドが全体のサウンドの中でどれだけはっきり聞こえるかが決まります。

The Tube

1970年代のビンテージチューブアンプ、The Tube を使用してリアンプされた信号を、チューブコンデンサーマイクで録音したものです。



On/Off

信号を有効または無効にします。

Solo

信号をソロにします。

Mute

信号をミュートします。

Pan

信号の定位を調節します。

たとえば、片方のアンプを左にパンニングし、もう片方を右にパンニングすると、非常にワイドで広がりのあるステレオサウンドになります。

Level

信号のレベルを設定します。

補足

「Level」設定によって、その信号の「Bark」、「Release」、「Pedal」の各サウンドが全体のサウンドの中でどれだけはっきり聞こえるかが決まります。

The Tower

The Tower というアンプを使用してリアンプされた信号です。

The Tower は、1950 年代の非常に希少なチューブギターアンプです。アンプのボリューム感と温かい音色を再現するためにダイナミックマイクで録音されています。



On/Off

信号を有効または無効にします。

Solo

信号をソロにします。

Mute

信号をミュートします。

Pan

信号の定位を調節します。

たとえば、片方のアンプを左にパンニングし、もう片方を右にパンニングすると、非常にワイドで広がりのあるステレオサウンドになります。

Level

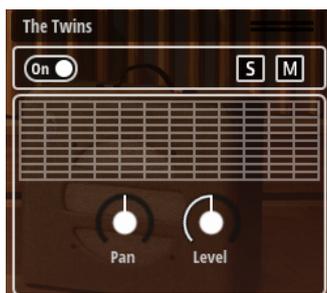
信号のレベルを設定します。

補足

「Level」設定によって、その信号の「Bark」、「Release」、「Pedal」の各サウンドが全体のサウンドの中でどれだけはっきり聞こえるかが決まります。

The Twins

1970 年代でよく使われていた別のチューブアンプを使用してリアンプされた信号を、チューブコンデンサーマイクで録音したものです。最も明るいサウンドを持つ信号です。



On/Off

信号を有効または無効にします。

Solo

信号をソロにします。

Mute

信号をミュートします。

Pan

信号の定位を調節します。

たとえば、片方のアンプを左にパンニングし、もう片方を右にパンニングすると、非常にワイドで広がりのあるステレオサウンドになります。

Level

信号のレベルを設定します。

補足

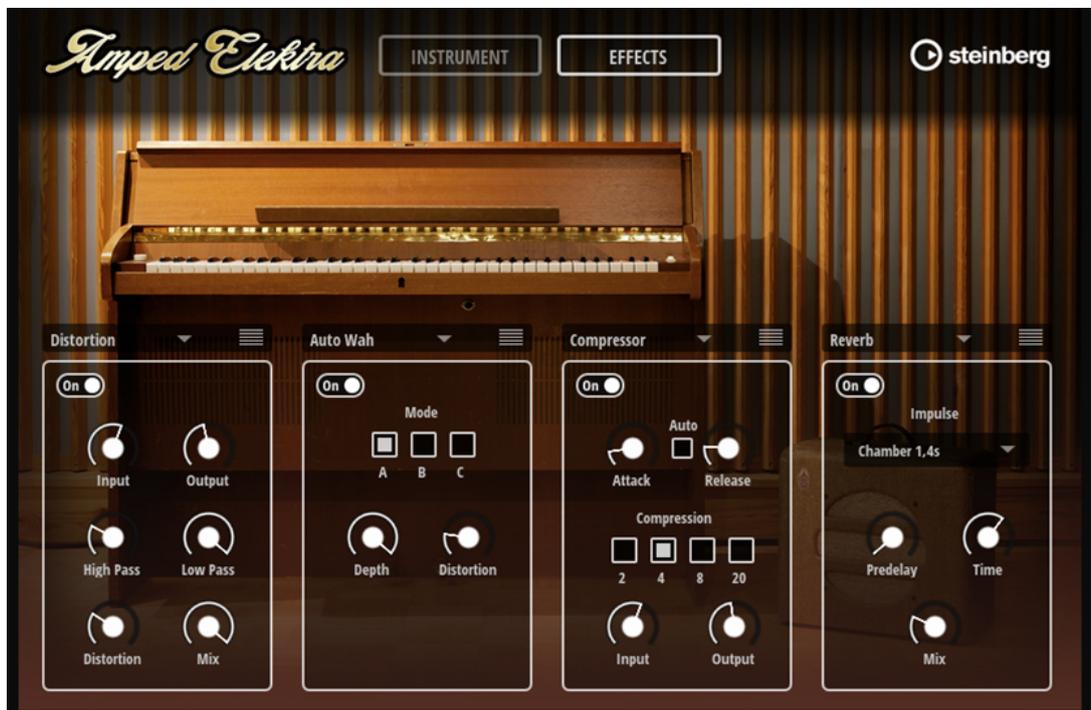
「Level」設定によって、その信号の「Bark」、「Release」、「Pedal」の各サウンドが全体のサウンドの中でどれだけはっきり聞こえるかが決まります。

関連リンク

[サウンドパラメーター \(5 ページ\)](#)

「Effects」 ページ

「Effects」ページでは、エフェクトを追加することで、「Instrument」ページで設定したサウンドの形状をさらに変化させることができます。



エフェクトは4つまで追加できます。音声信号は、このページに配置されている順(左から右)にエフェクトを通過します。

関連リンク

[使用できるエフェクト \(9 ページ\)](#)

エフェクトの追加

「Instrument」ページでサウンドを設定したら、「Effects」ページでサウンドにエフェクトを追加できます。

手順

- エフェクトパネルで、「Select Effect」をクリックしてメニューからエフェクトを選択します。

補足

エフェクトは、エフェクトチェーン内で1回だけ使用できます。

関連リンク

[使用できるエフェクト \(9 ページ\)](#)

エフェクトの順序の変更

エフェクトを追加した後に処理順序を変更する場合は、ドラッグアンドドロップで行ないます。

手順

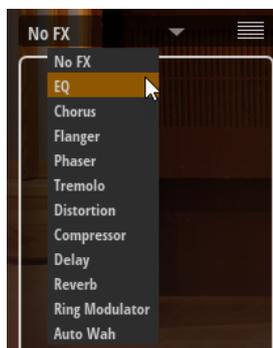
- エフェクトを別の位置に移動するには、パネルの右上角にあるドラッグアイコンをクリックしてドラッグします。



ドラッグ中は、マウスボタンを放したときにエフェクトが挿入される位置を示すアイコンが表示されます。

使用できるエフェクト

4つのエフェクトスロットのエフェクトメニューで、使用できるエフェクトを選択できます。



各エフェクトは、エフェクトチェーン内で1回だけ使用できます。選択したエフェクトは、他のエフェクトスロットのエフェクトメニューには表示されません。

EQ

EQ は高品質な 4 バンドのイコライザーです。



On/Off

エフェクトを有効または無効にします。

Low

低域のカットまたはブーストの量を設定します。
この帯域の中心周波数は 180 Hz です。

Low Mid

低～中域のカットまたはブーストの量を設定します。
この帯域の中心周波数は 500 Hz です。

High Mid

高～中域のカットまたはブーストの量を設定します。
この帯域の中心周波数は 1250 Hz です。

High

高域のカットまたはブーストの量を設定します。
この帯域の中心周波数は 5000 Hz です。

Chorus

ピッチモジュレーションによってサウンドの厚さと広さを増幅するエフェクトです。



On/Off

エフェクトを有効または無効にします。

Sync

オンにすると、「Rate」の値を拍子の分数で設定できます。

Depth

ピッチモジュレーションの強さを設定します。

Phase

エフェクトがかかったサウンドをモノラルからステレオに拡大します。

Mix

ドライ信号とウェット信号の比率を設定します。

Flanger

ピッチモジュレーションによってサウンドの厚さと広さを増幅するエフェクトです。



On/Off

エフェクトを有効または無効にします。

Sync

オンにすると、「Rate」の値を拍子の分数で設定できます。

Rate

ピッチモジュレーションの周波数をヘルツで設定します。

Depth

ピッチモジュレーションの強さを設定します。

Phase

エフェクトがかかったサウンドをモノラルからステレオに拡大します。

Feedback

エフェクトにレゾナンス (共鳴) を付加します。ジェット機のようなサウンドになります。

Tone

フィードバックの音質を調節します。低い数値に設定するとフィードバックの音質が暗くなります。

Mix

ドライ信号とウェット信号の比率を設定します。

Phaser

フェーズモジュレーションによってサウンドの厚さと広さを増幅するエフェクトです。



On/Off

エフェクトを有効または無効にします。

Sync

オンにすると、「Rate」の値を拍子の分数で設定できます。

Rate

フェーズモジュレーションの周波数を設定します。

Feedback

エフェクトにレゾナンス (共鳴) を付加します。値が高いほど効果も大きくなります。

Shift

フェーズモジュレーションをかける帯域を、より高い周波数にシフトします。

Phase

エフェクトがかかったサウンドをモノラルからステレオに拡大します。

High Cut

高域を減衰します。

Mix

ドライ信号とウェット信号の比率を設定します。

Tremolo

アンプモジュレーション、つまりサウンドレベルの周期的なモジュレーションを生成するエフェクトです。



On/Off

エフェクトを有効または無効にします。

Sync

オンにすると、「Rate」の値を拍子の分数で設定できます。

Rate

アンプモジュレーションの周波数を設定します。

Phase

エフェクトがかかったサウンドをモノラルからステレオに拡大します。

Depth

アンプモジュレーションの強さを設定します。

Distortion

明るいハーモニクスディストーションをサウンドに加えます。



On/Off

エフェクトを有効または無効にします。

Input Gain

ディストーションの入力レベルを調節します。

Output Gain

ディストーションの出力レベルを調節します。

High-Pass Cutoff

6dB/oct のハイパスフィルターです。カットオフより下の周波数を減衰します。

Low-Pass Cutoff

6dB/oct のローパスフィルターです。カットオフより上の周波数を減衰します。

Distortion

信号にディストーションを加えます。

Mix

ドライ信号とウェット信号の比率を設定します。

Compressor

サウンドのダイナミックレンジを低減します。これにより、サウンドにヘッドルームが得られます。このヘッドルームを利用してサウンド全体のボリュームをさらに上げることができます。



On/Off

エフェクトを有効または無効にします。

Attack (0.1 ~ 100 ミリ秒)

コンプレッサーが反応する速さを決定します。アタックタイムが長いと、信号の最初の部分で、処理されずに通過する信号の量が多くなります。

Release (10 ~ 1000 ミリ秒または「Auto」モード)

ゲインが元のレベルに戻るまでにかかる時間を設定します。「Auto Release」をオンにすると、プラグインによってオーディオ素材に最適なリリース設定が検出されます。

Auto (Release)

オンにするとリリースタイムが自動的に設定されます。コンプレッサーが継続的に入力を分析して最適な設定を求めます。

Compression Ratio

スレッシュホールドよりもボリュームが大きいサウンドに対する圧縮率を設定します。この比率が大きいほど音が圧縮されて出力が小さくなります。

たとえば、比率を 2:1 に設定していてサウンドのボリュームがスレッシュホールドよりも 4dB 大きい場合、出力は 2dB 下がります。

サウンドのボリュームがスレッシュホールドよりも 8dB 大きい場合、出力は 4dB 下がります。

Input

圧縮量を設定します。入力ゲインが高いほど、圧縮幅が大きくなります。

Output

出力ゲインを設定します。

Delay

このエフェクトはディレイを生成するもので、時間、フィードバック、およびフィルターを調節できます。



On/Off

エフェクトを有効または無効にします。

Time

全体のディレイタイムを 1000 分の 1 秒単位で設定します。

Sync

「Sync」をオンにすると、ディレイタイムをホストアプリケーションのテンポに同期します。「Sync」をオンにすると、ディレイタイムは音値に設定されます。

補足

最大ディレイタイムは 5000 ミリ秒です。ノートの長さがこの値を超過した場合、自動的に短縮されます。

Feedback

左右のディレイのフィードバック全体量を設定します。フィードバックとはディレイの出力がその入力にフィードバックされることを意味します。0% に設定するとエコーは 1 回のみです。100% に設定するとエコーは無限に繰り返されます。

Delay L/R

右または左のディレイタイムを全体のディレイタイムからオフセットします。倍率 1 では右または左のディレイタイムがディレイタイム全体の長さと同じになります。倍率 0.5 ではディレイタイム全体の半分の長さに相当します。

- 左のディレイタイムをオフセットするにはコントロールを左に回します。
- 右のディレイタイムをオフセットするにはコントロールを右に回します。

Feedback L/R

右または左のディレイフィードバック量をフィードバック全体からオフセットします。倍率 1 では、フィードバック全体と同じ量のフィードバックをオフセットします。倍率 0.5 では、フィードバック全体の半分の量をオフセットします。

- 左のフィードバックをオフセットするにはコントロールを左に回します。
- 右のフィードバックをオフセットするにはコントロールを右に回します。

High Freq

ディレイの高域を減衰します。

Mix

ドライ信号とウェット信号の比率を設定します。

Reverb

Reverb は、ビンテージスタジオユニットのカスタムメイドインパルスを備えたインパルスレスポンスリバーブエフェクトです。



On/Off

エフェクトを有効または無効にします。

インパルスレスポンスローダー

インパルスレスポンスを選択できます。リバーブの基本的なサウンド特性を設定します。

Predelay

ドライ信号にリバーブがかかり始めるまでの時間を設定します。「**Predelay**」の数値を高く設定すると、より広い室内をシミュレートできます。

Time

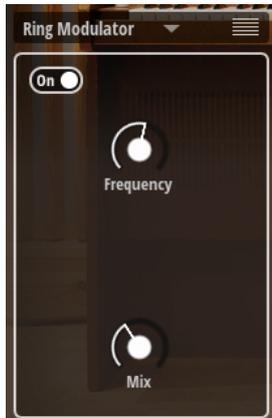
リバーブタイムをコントロールするパラメーターです。100% に設定するとインパルスレスポンスはオリジナルの長さになります。

Mix

ドライ信号とウェット信号の比率を設定します。

Ring Modulator

入力信号を掛け合わせる正弦波オシレーターを装備しています。ベルのように金属的な周波数を作り出します。



Frequency

正弦波オシレーターの周波数を設定します。

Mix

ドライ信号とウェット信号の比率を設定します。

Auto Wah

このエフェクトは、有名なアナログペダルの効果をエミュレートします。



On/Off

エフェクトを有効または無効にします。

Mode

エフェクトの特性が異なる、あらかじめ定義された3つのモードから選択できます。

Depth

エフェクトの強さを設定します。

Distortion

信号にディストーションを加えます。

索引

B

Bark [5](#)

E

「Effects」 ページ [8](#)

Extended Range [5](#)

I

「Instrument」 ページ [4](#)

P

Pedal [5](#)

R

Release [5](#)

え

エフェクト [9](#)

Auto Wah [17](#)

Chorus [10](#)

Compressor [14](#)

Delay [15](#)

Distortion [13](#)

EQ [10](#)

Flanger [11](#)

Phaser [12](#)

Reverb [16](#)

Ring Modulator [17](#)

Tremolo [13](#)

順序の変更 [9](#)

信号チェーン [9](#)

追加 [8](#)

お

音源 [5](#)

さ

サウンドパラメーター [5](#)